

121107 立冬（金剛山頂の紅葉）

今日は“二十四節季”では「立冬」、これから「立春」(2/4)の前日(節分)までが“冬”ということになります。

秋の深まりとともに鮮やかな黄色や赤色に彩られた“紅葉(黄葉)”も、次第に色あせていき、何か物悲しげな“冬の気配”が漂い始める...

標高 1,000m を超える金剛山頂付近では、平地部よりも一足先に“冬”が始まっているのでしょうか？

先日、「ちはや園地」に登った際、“冬の気配”を探してみたのですが、そのときに撮影した写真が別添のとおりです。

耳を澄ませば、かすかに“冬の足音”が聞こえてきそうな気がするものの、まだまだ“晩秋”と言ったほうがしっくりきそうな、“紅葉”に彩られた世界が広がっていました。

1 枚目の写真に写っている白い建物は、ちはや園地内にある宿泊施設「香楠荘」です。

【紅葉・黄葉】

落葉樹は冬の寒さに備えて葉を落とし、“冬芽”の状態です。

葉っぱの根元に「離層」ができて、やがてポロッという感じで葉っぱが枝を離れるのです。

「紅葉」は、秋になって葉に蓄積されたブドウ糖などと紫外線の影響で「アントシアン」という赤い色素が発生することによって見られる現象です。

一方、「黄葉」は、葉緑体の中の「クロロフィル」という緑色の色素が分解されて、それまで隠れていた「カロチノイド」という黄色い色素が目立ってくることによって見られる現象です。









